

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年1月9日
【四半期会計期間】	第46期第3四半期（自 2019年9月1日 至 2019年11月30日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 牧野 俊介
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第3四半期連結 累計期間	第46期 第3四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自2018年3月1日 至2018年11月30日	自2019年3月1日 至2019年11月30日	自2018年3月1日 至2019年2月28日
売上高 (千円)	31,185,968	30,351,609	39,643,803
経常利益 (千円)	4,002,588	3,234,282	4,122,629
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	2,276,666	1,775,172	2,036,832
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,327,852	1,801,666	2,103,764
純資産額 (千円)	24,564,550	25,292,913	24,340,461
総資産額 (千円)	37,243,825	37,566,829	34,775,333
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	134.05	104.52	119.93
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.1	64.3	66.9

回次	第45期 第3四半期連結 会計期間	第46期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年9月1日 至2018年11月30日	自2019年9月1日 至2019年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	99.87	108.44

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### （1）経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、引き続き回復基調でありました。一方、海外情勢においては、引き続き米中貿易摩擦問題を巡る緊張や地政学的リスクなど、不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、主力である写真事業において、競合他社との差別化強化を図り、お客様に選んでいただけるお店になるための取り組みを行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は30,351百万円（前年同期比2.7%の減少）、営業利益は3,211百万円（前年同期比19.2%の減少）、経常利益は3,234百万円（前年同期比19.2%の減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,775百万円（前年同期比22.0%の減少）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### （写真事業）

写真事業は、最需要期を迎えた七五三撮影において、前年度に引き続き、「七五三キャンペーン」および「七五三お出かけ着物レンタル」の実施に加え、1歳以下の赤ちゃん撮影件数の増加を目的とした「赤ちゃんモデルデビュー」や「赤ちゃん着ぐるみ&はだかんぼ撮影会」を実施いたしました。また、映画「アナと雪の女王2」の公開に合わせた期間限定のディズニーキャンペーンを実施し、更なる撮影件数の獲得に努めました。

国内子ども写真館の出店状況は、移転12店舗を含み16店舗出店、退店11店舗を行い、ショッピングセンター内の区画移動・増床を含む改装を38店舗実施いたしました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、国内子ども写真館505店舗（直営店舗495店・フランチャイズ店舗10店）、韓国の子会社における子ども写真館2店舗を含め、507店舗となっております。

以上の結果、報告セグメントにおける写真事業の売上高は30,165百万円（前年同期比3.0%の減少）となり、セグメント利益は3,334百万円（前年同期比20.1%の減少）となりました。

#### （衣装製造卸売事業）

衣装製造卸売事業は、成人振袖レンタル事業の受注件数の獲得に努めるとともに、国内和装縫製工場において、引き続き当社向け衣装の生産を進めてまいりました。

以上の結果、報告セグメントにおける衣装製造卸売事業の売上高は1,267百万円（前年同期比10.0%の増加）となり、セグメント利益は40百万円（前年同期比794.2%の増加）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ2,791百万円増加し37,566百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金、流動資産「その他」に含まれる預け金等の増加等により、前連結会計年度末と比べ1,326百万円増加の17,534百万円となりました。

固定資産は、投資その他の資産「その他」に含まれている投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末と比べ1,465百万円増加の20,031百万円となりました。

負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ1,839百万円増加し12,273百万円となりました。

流動負債は、短期借入金、流動負債「その他」に含まれる未払費用及び前受金等の増加等により、前連結会計年度末と比べ1,841百万円増加の8,303百万円となりました。

固定負債は、固定負債「その他」に含まれる長期リース債務の減少等により、前連結会計年度末と比べ2百万円減少の3,970百万円となりました。

純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ952百万円増加し25,292百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年11月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年1月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年9月1日～ 2019年11月30日	-	17,185,650	-	1,885,950	-	2,055,449

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 201,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,966,100	169,661	同上
単元未満株式	普通株式 18,150	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	-	-
総株主の議決権	-	169,661	-

【自己株式等】

2019年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	201,400	-	201,400	1.17
計	-	201,400	-	201,400	1.17

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1)退任役員

役名	職名	氏名	退職年月日
取締役	-	岩崎 哲也	2019年9月9日

(2)異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性6名 女性2名 (役員のうち女性の比率25.0%)

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,426,638	10,935,418
受取手形及び売掛金	758,476	1,824,678
たな卸資産	1,658,869	1,799,096
その他	1,396,405	3,003,715
貸倒引当金	31,855	28,000
流動資産合計	16,208,533	17,534,909
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,250,025	8,736,175
その他(純額)	4,371,613	4,266,025
有形固定資産合計	12,621,638	13,002,201
無形固定資産		
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,408,898	3,387,210
その他	1,459,030	2,510,443
貸倒引当金	230,063	230,063
投資その他の資産合計	4,637,865	5,667,590
固定資産合計	18,566,800	20,031,920
資産合計	34,775,333	37,566,829
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	226,260	412,512
短期借入金	-	400,000
未払法人税等	1,180,231	623,690
賞与引当金	129,858	41,256
その他	4,925,746	6,826,189
流動負債合計	6,462,096	8,303,649
固定負債		
退職給付に係る負債	1,046,810	1,107,059
資産除去債務	1,679,836	1,690,062
その他	1,246,126	1,173,144
固定負債合計	3,972,774	3,970,266
負債合計	10,434,871	12,273,916



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	19,505,786	20,431,750
自己株式	276,152	276,159
株主資本合計	23,171,033	24,096,990
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	12,598
為替換算調整勘定	100,548	72,225
その他の包括利益累計額合計	100,548	59,627
非支配株主持分	1,068,880	1,136,295
純資産合計	24,340,461	25,292,913
負債純資産合計	34,775,333	37,566,829

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
売上高	31,185,968	30,351,609
売上原価	21,713,181	21,686,883
売上総利益	9,472,786	8,664,726
販売費及び一般管理費	5,496,679	5,453,586
営業利益	3,976,107	3,211,139
営業外収益		
受取利息	1,616	1,655
受取家賃	16,532	16,805
受取補償金	17,130	37,870
為替差益	-	1,421
貸倒引当金戻入額	24,936	-
雑収入	17,679	28,357
営業外収益合計	77,895	86,109
営業外費用		
支払利息	11,276	12,692
店舗解約損	22,175	44,251
為替差損	8,755	-
雑損失	9,206	6,022
営業外費用合計	51,414	62,966
経常利益	4,002,588	3,234,282
特別利益		
固定資産売却益	-	229
特別利益合計	-	229
特別損失		
固定資産廃棄損	182,618	189,946
減損損失	191,963	171,600
特別損失合計	374,581	361,547
税金等調整前四半期純利益	3,628,007	2,872,965
法人税、住民税及び事業税	1,064,526	1,083,436
法人税等調整額	219,777	53,059
法人税等合計	1,284,304	1,030,377
四半期純利益	2,343,703	1,842,587
非支配株主に帰属する四半期純利益	67,036	67,415
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,276,666	1,775,172

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
四半期純利益	2,343,703	1,842,587
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	12,598
為替換算調整勘定	15,850	28,323
その他の包括利益合計	15,850	40,921
四半期包括利益	2,327,852	1,801,666
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,260,816	1,734,250
非支配株主に係る四半期包括利益	67,036	67,415

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至2018年11月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年11月30日)

当社グループの写真事業では、主として第3四半期の撮影機会(七五三等)が多いため、通常、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ、著しく高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
減価償却費	2,378,275千円	2,488,635千円
のれんの償却額	7,502	599

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至 2018年11月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月29日 定時株主総会	普通株式	849,211	50	2018年2月28日	2018年5月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至 2019年11月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月28日 定時株主総会	普通株式	849,208	50	2019年2月28日	2019年5月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,060,765	125,202	31,185,968	-	31,185,968
セグメント間の内部 売上高又は振替高	23,391	1,027,235	1,050,627	1,050,627	-
計	31,084,157	1,152,437	32,236,595	1,050,627	31,185,968
セグメント利益	4,171,387	4,541	4,175,928	199,821	3,976,107

(注)1. セグメント利益調整額 199,821千円には、固定資産の調整額等 22,137千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 177,683千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては191,963千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自2019年3月1日 至2019年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	30,139,527	212,082	30,351,609	-	30,351,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26,130	1,055,679	1,081,810	1,081,810	-
計	30,165,657	1,267,762	31,433,420	1,081,810	30,351,609
セグメント利益	3,334,153	40,609	3,374,763	163,623	3,211,139

(注) 1. セグメント利益調整額 163,623千円には、固定資産の調整額等11,323千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 174,946千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては146,705千円であります。

「衣装製造卸売事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては24,895千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	134円05銭	104円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額	2,276,666	1,775,172
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	2,276,666	1,775,172
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,984	16,984

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月8日

株式会社スタジオアリス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

千崎 育利

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

奥村 孝司

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年9月1日から2019年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の2019年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。